

## 原爆が広島に落ちた背景

占冠中2年 茶谷 一輝

みなさんは、1945年8月6日午前8時15分にエノラゲイという戦闘機からリトルボーイという原子爆弾が落とされたのを知っていますか。また、今回落とされたリトルボーイがどのようにしてできなぜ広島に落とされたかを、知っていますか。

まずは、ドイツの科学者が原子の核分裂を発見したことから始まりました。そして、イギリス政府が原子力の軍事利用を検討する目的で設けたモード委員会が、1941年の7月に、原爆の製造が可能であるとアメリカに報告しました。そして、アメリカ科学アカデミーが3、4年以内に原爆の使用が可能であると判断して、それを受けてアメリカは原爆開発に向けた動きを本格化しました。

次にアメリカは、マンハッタン計画と呼ばれる極秘の原爆製造を始めました。ウランなどの原料を生産し、原爆を開発するまで、約3年と20億ドルを費やしました。そして1945年の春、ついにアメリカは日本との長引く戦争を終結させるために、日本への原爆の使用を検討しました。

それから数カ月後、アメリカのハリー・トルーマン大統領のとき、ドイツのポツダムで原爆実験をし、成功することになりました。そして、7月26日に日本に無条件降伏を求めるポツダム宣言を発表しましたが、ポツダム宣言の中に原爆の存在や使用を表示していなかったため、日本はポツダム宣言を受け入れませんでした。また、アメリカは7月25日に広島、小倉、新潟、長崎のいずれかの場所に8月3日以降、最初の原爆を投下することを決めました。そして決まったのが、広島でした。8月6日の午前8時15分にリトルボーイが落とされ、広島上空約6メートルで炸裂しました。上空6メートルで炸裂したため、被害が円心円状に広がりました。また、爆心地から約2キロメートル以内の地域はことごとく焼失して、1945年の12月末までに、約14万人がなくなりました。

みなさんは、今回の話でなぜ広島に原爆が落ちたか分かりましたか。実は、広島にあらじめ約50キログラムのウランを投下していましたが、実際に核分裂したのは、1キログラムにも満たない量だったのです。もし、50キログラムが核分裂していたら、広島という場所はなくなっていたかもしれないですね。これは不幸中の幸いとも考えられます。皆さんも今回の私の話を聞いて、核の恐ろしさを分かってくれたのであれば、これから原爆や核の問題について真剣に考えてみてはいかがでしょうか。

## 「平和」

占冠中学校 松尾 優

「平和」はどうしたら続くのであろう。これまで私は普段の生活の中では、ほとんど「平和」について考えることはありませんでした。しかし、今回の広島平和体験学習に参加したことで、「平和」を守るためにしなければいけないことを真剣に考える良い機会となりました。

1945年8月6日午前8時15分に広島市に原爆が落とされました。このことを初めて知ったのは、小学生の時でした。当時は、ずいぶん昔に原爆が落とされたのかと思っていました。今はとても最近のできごとのように感じます。原爆の恐ろしさについて理解できるようになったのは、中高生くらいでしょうか。

原爆による放射線や熱線により、白血病や火傷を患ってしまうこと。その他にも、胎児に悪影響を与えてしまうこと。そのようなことを知ってはいましたが、実際に被爆した人の身体を見て、話を聞くことで本当に恐ろしいものと再認識しました。

河本謙治さん(91)から当時の様子について、詳しくお話を聞くことができました。河本さんは当時18歳で、横川駅という爆心地から1.5kmほどの地点で仕事をしている時、左半身に突然の光と爆風に襲われました。気がついたときは、自分の身体の左半身が火傷で爛れてしまっていること。周囲の人たちは、「水が飲みたい」「殺してくれ」などと叫び、当時の悲惨さがかげがえします。また、河本さんは服を脱いで、被爆した傷を見せてくれました。今でこそ、皮膚移植によりある程度治療することができたと聞いていましたが、数年前までは、見るに耐えない傷であったようです。

河本さんに「平和のために私たちができることは、どんなことがありますか」と聞いたところ、次のように話してくれました。「悪いと思つた

ことから目を背けないこと。一人ではなく、団結して数の力で闘うこと。」

河本さんのお話を聞いて、平和のためには一人ではできなくてもみんなで力を合わせて闘うこと。そして、このことを語り継いでいくことが必要だと感じました。

歴史を振り返ってみると、世界各地で今日も戦争が行われています。戦争が起こる理由には、次のようなことが挙げられます。貧しい時代を生きていくために、食料が必要になるので、領地を確保するため。宗教の考え方の違いによる対立など、本当にいろいろなことが起きています。日本も過去に戦争を行っています。今回の広島平和体験学習では、被害的な立場について触れられています。日本の加害的な立場については触れられていません。加害者、被害者の両方の立場について知ることが必要だと思えます。両者を知ったうえで、全員が相手の気持ちを考える事ができれば、「平和な世界」が訪れると思います。

## 平和体験学習に参加して

トナム学校 藤田 まき

「皆さん、あなたや大切な家族がそこにいたらと想像しながら聞いてください。」この言葉は、祈念式典で広島市長が冒頭に語った言葉です。それを聞いた時、目に涙が溢れました。私達は前日、平和祈念資料館へ行っていたのでそこで目にしたものが脳裏によみがえったのです。焼け残った子ども達の衣服がありました。生前の元気な笑顔の写真がありました。焼けただけ体の写真がありました。そして、子を探す母の手記がありました。それらが私、だったら、私の家族だったらと考えた時、涙がこぼれそうになったのです。

証言者のつどいでは川下ヒロエさんからお話を伺いました。川下さんは原爆小頭症（胎内被爆で頭が小さく生まれ、知能や身体の障害を伴う病气）です。川下さんのお話を支援する方が補足しながら会を進みました。話のやり取りや質問の返答もかわいらしい純真な子どものように、ずっとニコニコしながら返答なさっていました。会も終盤に進んだ頃、ある中学生からこんな質問が出ました。「私達は地元に戻ってここで学んだことを伝えようと思っっています。そこで、お伺いしたいのですが、皆に一番伝えたいことはなんですか？」というものでした。その時、ニコニコされていた表情はパツと一変し、厳しい表情のまま「核兵器を全部なくしてほしいです。」と、はつきり迷うことなくおっしゃっていました。

その後、後ろで見えていたこの会を支えている方から、補足するような形で説明がされました。この方は数々の国際会議にも参加してきた方の方でした。「今、核廃絶に向けて行われる国際会議の場では、若者の意見も積極的に取り入れようとする動きが行われています。しかし、唯一の被爆国である日本が、一番声をあげても良い日本がなかなか発言出来ていません。平和をアピールしながら、アメリカの核の傘に守られている日本本だということを知っているからです。どの国も言葉にはしていませんが、一番変わらなければならぬのは日本の政治だということを知っているからです。」と説明されました。質問した中学生には、それらの話をまとめる形

で「核兵器をなくしてほしい。それには、政治に関心をもつてほしい。」ということが伝えられました。

今回、一緒に同行した中学生から時折聞かえてきた言葉にはこのようなものがありました。「この重々しい雰囲気はちよつと苦手だな。」「どうして長崎のことはあまり報道されないんだろう。」「憲法九条変えようとしているんですよ。」という言葉です。歴史の重大さに気付き、疑問を持ち、関心をもつ。平和体験学習に参加したことでここにいる子どもたちは知識として学んだだけではなく、語りきれないほど多くの事を心で学んできたと思います。

広島では、未だ病氣と闘っている方、差別に怯え苦しんでいる方、語り継ごうと辛い過去に真摯に向き合っている被爆者とそれを受け止める若者がいます。そして、占冠にもこうして平和を学習する機会があります。こうした活動の積み重ねがいつか世界の国々も含めた平和を願う大きな一つのものになることを願っています。私は、この平和体験学習に参加して、地域で平和について考えられる若者を育てていることを誇りに思っています。そして、とても尊い活動だと感じました。そして平和な未来を築こうとする子ども達の思いや行動を支えられる大人でありたいと思えました。このような機会を設けてください上げます。有り難うございました。

